

## 『夜の幻』(ダニエル書 7章1-18節) 2022.2.6.

<はじめに> 9-11月に10回にわたってダニエル書の前半を見て来ました。1-6章にはダニエルたちの物語でしたが、後半の7-12章はダニエルが見た幻が綴られています。本書の概要は、聖書プロジェクト「ダニエル書 概観」<https://www.youtube.com/watch?v=4NhD0vZ9yPc>にあります。

### I ベルシャツアルの元年(1-3、BC553年)

#### ①ベルシャツアル王(5章)

ダニエルが最初に仕えたネブカドネツアル王は専横的でしたが、自らの愚かさを認めて悔い改めもしました(4章)。しかし、その孫ベルシャツアル王は高慢不遜で独裁的でした。5章では彼の最期が描かれていますが、7章はその14年前、彼の即位直後でした。

#### ②王座を巡って(年表参照)

ネブカドネツアル亡き後、身内同士で王権を巡り、血で血を洗う状況が続いていました。やがて王座に就いた父ナボニドスの摂政としてベルシャツアルは実権をふるいました。ダニエルは比較的近くでこの状況を見、行く末を案じていたのでしょう。

#### ③風が大海をかき立て(1-3)

風がぶつかり合い、海が逆巻き、その中からそれぞれ特徴のある4頭の大きな獣が上がって来る幻をダニエルは見ました。その風は天から吹いていました。見える現象の背後には、天的な神の干渉と支配があります。

### II 四頭の獣

#### ①四頭の獣(4-8、17)

驚の翼をつけた獅子、口に牙を持ち横たわる熊、4つの頭と翼を持つ豹、大きな鉄の牙を持ち10本の角を持つ不気味で強い獣が次々現れます。ダニエルは傍らに立つ者に尋ねると、彼は「これら4頭の大きな獣は、地から起こる4人の王である」(17)と告げます。

#### ②第四の獣(8、19-21、23-25)

最後の獣は10の角にもう1本角が生え、3本が抜け落ちます。この国から立つ10人の王の後に現れる王は3人の王を打ち負かし、いと高き方に逆らうことばを吐き、聖徒たちを悩ませます。この小さな角は反キリストとその国で、聖徒たちに戦いを挑みかけます。

#### ③悩み怯えるダニエル(15)

この幻は2章の巨大な像と似て、これから起こる列強国の興亡を示し、その後確立される神の国を示すものです。ダニエルはすでにその幻を解き明かしていましたが、今回の幻には悩み怯えます。戦いを挑む者の手に、聖徒たちが委ねられているからです(21,25)。

### III 永遠の主権

#### ①年の経た方と人の子のような方(9-14)

四頭の獣の後に、ダニエルは幻の新しい局面を見ます。御座に着く「年の経た方」によるさばきが始まり、第四の獣は滅ぼされ、他の獣は主権を奪われて定めの時を待ちます。さらに人の子のような方が来られ、年を経た方はこの方に主権と栄誉と国を与えます。

#### ②確かめようと(15-19、26-27)

「いと高き方が人間の国を支配し、これをみこころにかなう者にお与えになる」(4:25)ことを知っていたダニエルは、この一連の幻もそうなのかと傍らに立つ者に確かめます。神の国の真理がこの世の現実を支配していることを、聖書と御霊で私たちが確かめるのです。

#### ③すべての主権は聖徒たちに(27-28)

最初から勝利と祝福・喜びへ一直線なら、受け取るのは容易ですが、困難試練が巡り来るともこの幻は示します。だから動揺し、悩み怯えます。しかし、そこでひるんではなりません。敵対する者は必ず滅ぼされ、主権と権威はいと高き方の聖徒に与えられます。

<おわりに> 神を信じる聖徒たちへの戦いは現在進行形です。「しかし、それは『年を経た方』が来られるまでのことであり、いと高き方の聖徒たちのためにさばきが行われ、聖徒たちが国を受け継ぐ時期」(22)が来るまでです。夜の幻は今を耐え忍び、後に希望を抱かせます。(H.M.)